

## 天満屋倉敷店 2015年4月の画廊予定

### ◎ 4階美術画廊

会 期	内 容
3/27(金)～4/2(木)	<p><b>岡山<span style="font-size: small;">(おかやま)</span>の書と絵画展<span style="font-size: small;">(しよかいがてん)</span></b></p> <p>倉敷を中心に岡山県内の郷土ゆかりの作家たちの書と絵画を、一堂に展覽いたします。</p> <p>(出品予定作家)</p> <p>〈書〉大原孫三郎(倉敷)、大山康晴(倉敷)、高木聖鶴(総社)、円山伝衣(岡山)など          〈画〉池田遙邨(倉敷)、上嶋鳳山(笠岡)、児島虎次郎(成羽)、佐藤一章(矢掛)など          約100点の出品予定です。</p>
4/3(金)～4/9(木)	<p><b>中島黙仙<span style="font-size: small;">(なかじまもくせん)</span>作陶展<span style="font-size: small;">(さくとうてん)</span></b></p> <p>1954年岐阜県土岐市生まれ。京都、土山松泉先生の下で修業後土岐市に築窯され、茶陶を中心に洗練された技術に高い評価のある、中島黙仙先生の倉敷天満屋では2年半ぶりの個展です。特に今展では新境地「白釉」による新作と先生の得意とされる黄瀬戸・安南染付の茶盤、酒器など約80点の展覽予定です。4月3日(金)・4日(土)・5日(日)の3日間、速水流によるお呈茶席も予定しております。</p>
4/10(金)～4/16(木)	<p><b>今永清玄<span style="font-size: small;">(いまながせいげん)</span>油絵展<span style="font-size: small;">(あぶらえてん)</span> —いのちのうた—</b></p> <p>1963年大分生まれ。「道端の草木や石ころにも霊が宿る」というアニミズムの世界を描きたい、と語る今永先生。多摩美術大学卒業後、洋画の具象作家として活躍され、30代で安井賞の最終審査に残った実力派。独特の感性でデフォルメされたフクロウや花などをメリハリある色彩と構図で描いた作品は、どれも温かさや愛らしさが感じられます。今回は新作を中心に約30点の展覽予定です。</p>
4/17(金)～4/23(木)	<p><b>第1回 備前<span style="font-size: small;">(びぜん)</span> 大石橋宏樹<span style="font-size: small;">(おおいしはしひろき)</span>陶展<span style="font-size: small;">(とうてん)</span></b></p> <p>1973年東京生まれ。岡山吉備高原学園で人間国宝の故・藤原雄氏と出会い、大学卒業と同時に藤原家に入門。藤原家の「単純・明快・豪放」を受け継ぎつつも新しい表現にも取り組む。特に先生は壺を得意とし、焼成は地上式登窯を使用し、魅力的な線が生かされた作品を目指しておられます。また、現在先生は作陶の傍ら高校などの陶芸講師をつとめるなど、後進の育成にも力を入れておられます。壺、花器、花入、酒器など約80点の出品予定です。会期中、作家在廊予定です。</p>
4/24(金)～4/30(木)	<p><b>民芸作家<span style="font-size: small;">(みんげいさか)</span>巨匠展<span style="font-size: small;">(きゆうしやうてん)</span></b></p> <p>大正から昭和にかけて、日常的な暮らしの中で使われてきた日常雑器や日用品の中に「用の美」を見出し、これを広く紹介する活動『民芸運動』に尽力し、大原美術館にも数多く作品が収蔵されている河井寛次郎、濱田庄司、棟方志功、芹沢銈介、柳宗悦などを中心に、人間国宝級の民芸作家の作品を一堂に展覽いたします。</p>

営業時間 10:00～19:30

いずれも会期最終日は、午後4時に閉場いたします。

お問合せ  
 天満屋倉敷店 販売計画  
 TEL 086-426-2205  
 FAX 086-426-1136

※会期・タイトルは都合により変更することがあります。